

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2022年12月1日 231号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

日陽園のパイオニア2世たち



お揃いのチャパボラTシャツを着て。10月22日



李さん：農業を取材中



太田君：豚の世話



野口君：機械・車両修理



大西さん：ポット苗作り



船戸君：パクーの収穫

汗だくで働くチャパボラ、前進中！

10月24日、第一期チャパボラ生、第二陣の5名が各々のチームに配属されました。期待されたこととはいえ、ひた向きに、エネルギーに、時間の経つのを忘れて働く若者たち。これはその1週間後の感想です。

●船戸君(養殖)・・・まず、僕はメンバーに恵まれたと思います。他のチャパボラ、特にウオンジン(大西)さんやヨンジ(李)さん、キヨン(野口)君たちは一人でやっていかねばならない環境の中、自分は山崎君や川久保さんと一緒に仕事をできることが感謝です。正直、パクーの養殖に対してそこまで強い思いはまだありません。でも文先生夫妻が愛するパクーなので、興味はありました。岩澤所長から滝川さんの話を聞きましたが、彼がどんな思いでパクーを愛して、投入してきたかよく分かれば、自分もパクーをもっと愛せる気がします。これから滝川さんから色々学びながら、仕事を頑張っていこうと思います。

●大西さん(農業)・・・農業でよしお(石川)君が楽しそうにやっているのを思い出すたびに、それが心の支えになりました。ヨンジ(李)さんが色々気にかけてくれたことも嬉しかったです。一人で作業する中においても、あるいは人と話す中においても、自分の中で求めているものを見つけつつあると感じました。

●野口君(内務)・・・機械メンテが主業務で、電気が副ということになりました。希望通りでよかったです。仕事は楽しいです。ただ会話はスペイン語のみ。普段とは違う頭を使うのでストレスがあります。作業場では傍観者にならないよう、主体的に動くことを意識しています。自ら動かないと仕事をもらえません。この1週間疲れたけれども、スペイン語の学習をしながら主体的に動くことで学べると感じました。

●太田君(養豚)・・・事業計画をしっかりとやっていけば、養豚でレダを支えられるのではないかと思います。亮悟(井原)さんと一緒に働いています。社会人をしていて彼の視点や考え方を学んで、自分も成長できるんじゃないかと思っています。3年、あるいは5年計画を立て、生産と販売の基盤を整備し、販路の開拓をして経営基盤を造っていけば、養豚事業を発展させられる希望があると感じました。(次面につづく)



名前入りのチャパボラTシャツ。10月22日



養殖パクーの収穫作業。10月28日



滝川君(左)とチャパボラ二期生。11月2日



カピバラと石川君。10月22日



レダ産の蜂蜜は高純度で芳醇。11月8日



養豚場で楽しい食事。10月24日



アセロラの果が熟れる季節。10月29日



パクーの配達で大口注文者宅へ。11月3日



養殖池に来る鵜を見張る。10月28日



大野さんとピラニア。11月6日



福井さんとピラニア。11月6日



澤木さんとマンディィ。11月6日



太田君(左)と山崎氏。11月4日

チャパボラ (一面よりつづく)

● **李ヨンジさん**(内務)・・・広報と食材管理を任せられました。広報はやってみたいことがありながらも、どこから手をつけようか、自分の中で整理できていませんでしたが、まずは、今ある「パンタナル通信」について小田先生から色々学べた1週間でした。

食材管理というアバウトな仕事で、青年に業務を引き継いでほしいと願われる部分を、自分ができるのか、ちょっと不安にもなったし、正直どうすればいいのかわからなくて、立ち止まったりもしました。そんな時、まずは「全力で目の前のことをやってみる」という言葉に出会って、精誠を積むことが大事だと感じました。また自分がここレダに来た動機に改めて立ち帰ったときに、無償のボランティアだからこそ、無条件で「為に生きる」生活に徹したいと思いました。本音では、一人で歩むことに寂しさも感じるのですが、与えられた仕事や人との関係を通して、改めて神様に出会い、確信をもっているなことに挑戦する自分に成長したいと思います。

また広報担当者として、みんなの働く姿を見て、今までみてきたメンバーの表情とは違う新たな一面を見れて、みんな素敵だなと感じました。

持続可能な福地建設をめざして16

平和と公正をすべての人に

和田賢一



いよいよ、このシリーズも大詰めになってきました。それというのも、これまで論じてきましたSDGs（持続可能な開発目標）の各項目（ゴール）は、現実の世界の在りようを分析し、政治・経済・社会分野における国際機関、各国政府、自治体、さらに企業や教育機関がどのような取り組みが望まれているのかを論じるものでした。

今回のSDGsゴール16と最終の17は極めて精神的、哲学的、さらには宗教的な問題と深く関わっているために、慎重に論じる必要があると考えるからです。ゴール16は「平和と公正をすべての人に」というもので、ゴール17は「パートナーシップで目標を達成しよう」とうたっています。いうなれば、SDGsの目標を実現するための精神について論じているのではないかと思うからです。

前置きはそのくらいにして、今回のテーマに入っていきます。ゴール16は次の通りです。

「持続可能な開発のための、平和でだれをも受け入れる社会を促進し、すべての人々が司法を利用できるようにし、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任があり、だれも排除しないしくみを構築する」この目標に向かって10のターゲットが挙げられています。それを要約すると、

- あらゆる暴力を排除する。
- 子供への虐待、搾取、人身売買などを排除する
- 違法な資金の流れを断ち、汚職を排除する
- 武器の売買を排除して、犯罪組織を根絶する
- テロリズムに立ち向かい、そのために関係機関、関係国が協力する
- あらゆるレベルで法の支配を確立し、すべての人々が平等に法を利用できる

これらを一言でいえば、いかなる人々であっても、法の支配の中で守られて、どのような犯罪の犠牲にもならない世界を築くということでしょうか。

蟹江憲史氏の著書「SDGs（持続可能な開発目標）」によると、「平和」と「持続可能な社会」の実現は同義語なのではないかと指摘。広辞苑では、「平和」の意味は「戦争がなくて世が安穏であること」とともに「おだやかで変わりのないこと」とあります。蟹江氏は「変わりのないこと」がすなわち「持続可能なこと」であるなら、平和は持続可能な社会ということであろう、と言及しておられます。では、果たして今日の世界、またはわが国の現状は「おだやかで変わりのない」状況でしょうか。答えは「ノー」と言わざるを得ません。2022年2月、ロシアのウクライナ侵攻によって戦端が開かれ、ウクライナの国土は焦土と化しています。激しい人的犠牲は言うまでもありません。さらに「プーチンの戦争」は世界に波及して、政治、経済、社会など、あらゆる



ロシアの侵攻に抗議するウクライナの人々。（Pixabay提供）

分野で打撃を受けています。

SDGsで問われている、子供の犠牲に話を戻すと、日本ユニセフ協会の調査によれば、

「2012年の1年間で、9万5千人の20歳未満の子供が、世界で起こった殺人事件の犠牲となった。」
「世界に約10億人いる2歳から14歳の子供の約6割が、保護者などから身体的懲罰を受けた。」
「世界の20歳未満の少女について、その約10人に1人に当たる1億2千万人の女の子が、どこかの時点

で強制的な性的犠牲にさらされている。」
等々の内容を、10の事実として公表しています。

これらは、SDGsという排除しなければならぬ例の一端です。こうした暴力は、家庭、学校などで展開されています。テロのように暴力の規模が大きくなると、地域、国家の内紛、国家間の紛争、あ

げくの果てに戦争へとつながっていきます。

暴力が展開していく過程で、見落としてはならない要因があります。それは「思想」間の相克です。

家庭内のいさかいは、個々人の考え方の違い、例えば家庭とはどうあるべきか、という問いに対するさまざまな意見の違いから生じていると考えられます。地域での人々の差別や対立も、互いの「人生観」の食い違いから生じていると考えてもよいでしょう。さらに民族紛争や国家間の対立は「国家観」や「歴史観」の対立から生じていることを見逃せません。さらに言えば、「宗教観」の相違が、国家を越えて、地球規模の対立の構図を描いています。

無論、そうした構図の上に、人種の違いや経済格差などが絡んで、さらに複雑な構図が編み込まれているのが、現在の「地球村」であると考えられます。SDGs16では、大規模な暴力に対し「違法な資金の流動を断つこと」「武器の売買を排除すること」「犯罪組織を根絶すること」「テロリズムに立ち向かうこと」などを示し、そのために関係機関、関係国が協力することを促しています。

二度の世界大戦を経験した人類は、1945年に国連憲章を定めて再出発しました。その憲章に「基本的人権と人間の尊厳および価値と男女および大小各国の同権とに関する信念を改めて確認し」との精神が掲げられています。しかし、そんな国連創設の目標も現実世界の荒波に揉まれ続いているのです。国連改革が叫ばれているのも当然でしょう。

ユネスコ憲章は「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」と謳っています。私たちの心の奥に注目する以外に、SDGsの目標達成がなされないことを、もはや誰もが認識しているにも関わらず、そうした論議が乏しいのは残念でなりません。（つづく）

「釣りつて人生のようです」

チャパボラ第一期生、2陣の5名が、去る10月21日、釣りの実践路程を終りました。以下、青年たちの感想です。（順不同）

●野口君…初日はほとんど釣れませんでした。太田君が釣れていたの、少々嫉妬心もあったのですが、2日目にマリナ前で試みたら、よく釣れました。場所選びも重要ですね。目標はドラドとピンタードを各1匹、ボガ20匹でしたが、4日目によく釣れたので、1匹釣れて、とてもうれしかったです。ヨンジさんが言ったように「釣りつて人生のようです」。

釣れる日もあれば、釣れない日もあります。どんなに釣れない日でも釣りを垂らす自分を見ていないのだということがよく分かりました。

●太田君…始め、釣りの何が面白いのかと疑問もありましたが、兄弟たちに釣りのやり方を教わり、一気に釣れるようになって楽しくなりました。釣りの実践路程に入り、たくさん釣れると思ったのですが、ボガは2匹釣ったところで終わってしまいました。また午前中はよく釣れて楽しかったのですが、午後は魚の反応の全くないうちも、竿を振るのをやめようかという気持ちと闘う時間がしんどかったです。ふと周りの美しい世界が見え、少し集中しながらも、周りを見ることもできました。大切な思い出です。



青年たちの横で魚を探すユキサギ。10月18日



ヨンジさんが釣ったボガ。10月20日

●船戸君…「釣りは奥が深い」と言われますね。レダで釣りをしていると、「静寂」の漢字二文字が想われました。そして釣りは「心身統一」だと思えます。文先生が愛された釣りをしながら、自分

自身を振り返る時間でした。神様と、大自然と、その中の万物を愛しながら、文先生の心を訪ねていきました。願った4種の魚は釣れませんでした。ここで捧げた精誠はどこかで必ず実ると信じています。●大西さん…ボガ3匹の目標に挑戦し、結果は1匹でした。自分の置かれた状況を前向きにとらえた時、本当の意味で目標に向かえるようになったと思います。実践では釣りたい4種の魚以外が釣れたり、全く釣れなかったりしました。結果が出ないときどう過ごすかが大切だと考えると、釣りの結果は「運」によるのではなく、努力の結果として受け止められました。小さな魚でも釣れると嬉しいのですが、もっと大きいものを目指していた時、ボガが釣れました。自分の気持ちと真摯に向き合い、向上心を持つことが結果に結びつくと思いました。

●李さん…目標は、ボガ、ドラド、ピンタード各1匹で、結果はボガ2匹でした。これは神様が釣らせてくださったと思います。「もうすべて準備はできている、私（神）はあなたの幸せを願っているから大丈夫」だというメッセージだと受け止めました。

Facebookでレダのニュースを！



長い間ご愛読いただいた「日陽園便り」（Word形式）は、540号をもって、一旦終了させていただくことになりました。多忙なレダ基地スタッフが、より軽快なフットワークでレダの日々の様子を皆様にお伝えできるようにするためです。

これからは当会グループのFacebookを活用していきます。当面の担当者は、チャパボラ第一期生の李ヨンジさん。写真、動画などをどんどん発信し、レダのフレッシュな息吹を皆様にお伝えしたいとのことです。

⇒ <https://www.facebook.com/groups/1816339478591894/>



一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

支援金振込口座：ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール:office@asd-nsa.com

ホームページ:https://asd-nsa.com

Facebook:https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

レダ・プロジェクト紹介 用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>